

なぜ人間は敵同士なのか？

【訳者注】これは私自身が考えていることでもあり、少しでも世界の現状を憂慮する人なら、ほとんど異存のない平均的な考え（叫び）だろうと思って訳した。このようなことを、否応なく、一人ひとりに考えさせるように、いま世の中は動いている。これが神意（超越的な意志）であったと私は考える。この方向へ我々全員の思考を誘導するために、これだけの途方もない悪と犠牲が世界中で行われている。このままでは人間と世界は滅びる、これまでとは「根本的に異なった考え方」をしなければならないと、誰もが考える。今起こっている悪が、「純粹悪」ともいうべき、あまりにも極限的な悪であること、どうしても世界大戦を起さねばならないという、いわば非人稱的な強い意志が働いていることを考えると、ここに超次元的なものを感じざるをえない。今起こっていることは、我々を目覚めさせるための catalyst（触媒、きっかけ）だと言われている。

最も根源的なものは、ここで言われている「自我」という迷妄からの目覚めであり、論者は明らかに、その象徴としてアメリカの、愚かな「例外主義」にふれているが、原理的には、そもそも自分と他者を分けることが不幸の根源だと言われる。そんなことができるはずがないと言われるだろうが、それを実行しなければ、文字通り生き残れないという、宇宙的メッセージが今、下っていると考えられる。このエッセーの最後の2節は、そういう意味に取れる。我々の苦しみには、命を賭けて汲み取らなければならない「意味」がある。我々は復讐しにこの世へきたのではない、学習しにきたのである。

このことは、Ra Material とも呼ばれる The Law of One というチャネリング情報の教えでもあり、イルミナティの最高の哲学者と思われる Hidden Hand の教えでもある。私はこの2つについて簡単に書こうと思っていたところへ、このエッセーを発見し、これが貴重な触媒として働くことになった。

Van Robison

Global Research, June 15, 2017

人間の精神や感情にどんな間違いがあるのだろうか——人間同士が歯をむき出して憎み合うとは？ 人類の歴史は、血や、死と破壊の大海ではないか、なぜなのか？ 現実的にこの地球上では、政治や宗教の世界の誰ひとり、回答や解決を見出した人はいない。あらゆる者が他人を指さすが、自分自身を禍の元として指さした者はいない。誰も鏡を見る者はなく、自分は“テロと戦っている”のだと主張する。世界中に、何百という軍事基地をもっているのは誰か？ そしてなぜか？

あなたが報酬をもらう暗殺者だとして、なぜそんなことをするのか？ あなたは、あまりにも洗脳されたので、自分自身の精神も感情も良心も持たず、ゾンビーかロボットのようにコントロールされているのか？ あなたが戦争で他の人間を殺すとしたら、なぜそうするのか？ 他の人間は“敵”だと洗脳されているからか、それとも、“自由のために戦っている”のか？ おそらく相手も同じように考えているだろう。

人間は本当に“頭がよい”のか？ もしそうなら、なぜ人間は、殺し、苦しめ、強姦し、大量殺戮、ウソ、騙し、プロパガンダ、盗み、情欲、課税、強制、投獄、スパイ、偽造、憎悪などを行うのか？ もしそれが、人間の頭のよさだというなら、世界は、子供のように未熟な、知恵や理解力のある大人になりきっていない者たちによって、支配されている。

おそらく、この地上のどんな国より、最も恐ろしい“敵”は**自我**である。自我は常に、自分の目には正しい。自我は誹謗する、自我はおのれのみ良しとする、自我は利己的である。しかも自我は信頼されず、ウソやプロパガンダを真理と信じ、受け入れるように、プログラムされている。自我は常に他者を指さし、自分を指さすことはない。

なぜ人間たちは敵なのか？ それは宗教が、人間を相争う陣営に分けたからであり、宗教のあるものは“防衛”を装って侵略するからである。人間が自分の子供たちを洗脳して、彼らは“神”の目から見て“特別”だと教える限り、誰も目を開かれず、人間同士の敵意を解決することはできない。少数者が、世界とそのすべての資源を支配するためには、どんなことでもしようとするなら、地上の平和と調和に至る道はない。

人間が敵同士であるのは、世界で問題を起こす者たちの精神年齢が低いからである。地球上の諸問題に関する情報の百科全書は書かれてきたが、その回答や解決が提出されて、地球が平和のユートピアになったことはない——軍隊もなく、戦争もなく、大量死も破壊も、ウソもプロパガンダも、騙しもスパイも、税金もなく、少数者が多数を支配することもなく、また法廷や裁判官のように、人間を支配する政府もない、そんな世界が現れたことはない。

どうして愛や同情、慈悲や感情移入、また謙虚といった精神性が、世界全体に影響を与える支配者や、地上生活の決定をする者たちにとって、これほど縁遠いのか？

誰かがどこかで、地上の生活について、根本的に異なった考え方をし始めなければならない。なぜなら世界は、悪魔的で残忍な悪——諸国家の支配者が世界に加える、永続する暴力や戦争、死や破壊——に支配されることに、倦み疲れ、胸が悪くなっているからである。答えは必ずあるはずである。しかしこれまでのところ、人間の政府に、そういうものはなかった。

政治家、裁判官、警察官、それに多数者に権力を振るう少数者による、暴力、憎しみ、大量虐殺、そして支配、**その上に**、何らかの人間生活に対する理由があるのではないか？

人間のつくった、実質的にすべての地上生活の制度を、考え直してみるべきではないのか？
いま政府は、苦しみの他の原因を全部合わせたよりも、人生にの苦痛と苦しみの大きな原因になっている。**政府が神なのか？**